



**衣笠キャンパス**  
KINUGASA CAMPUS

〒603-8577  
京都府京都市北区等持院北町56-1 有心館1階  
TEL **075-465-1952** FAX 075-465-1982



**びわこ・くさつキャンパス**  
BIWAKO KUSATSU CAMPUS

〒525-0058  
滋賀県草津市野路東1丁目1-1 アドセナリオ1階  
TEL **077-561-5910** FAX 075-561-5912



**大阪いばらきキャンパス**  
OSAKA IBARAKI CAMPUS

〒567-8570  
大阪府茨木市岩倉町2-150 A棟1階AN事務室  
TEL **072-665-2195** FAX 072-665-2059



**ボランティア募集や地域活動情報をお寄せくださるみなさまへ**

お寄せいただいた情報は、以下の方法で学生に紹介しています。

- ① 掲示板やラックでの配架 / SNS での発信
- ② 来室した学生への情報提供

**01 初めて広報依頼をされる場合**

- ① 「団体情報カード」をご提出ください  
(郵送 / E-mail / 窓口でのご提出)
- ② 「団体情報カード」に基づき、ヒアリングをさせていただきます
- ③ 広報資料をお送りください  
(郵送 / 窓口へのご持参)

※衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス、大阪いばらきキャンパスの各センターにおいて情報提供を希望される場合は、紹介を希望するキャンパスを明記の上、いずれかのキャンパスに広報資料をお送りください(キャンパス間の送付については事務局にて行います)。

団体紹介カード



word form



pdf form



google form

**02 「団体情報カード」を提出済みの場合**

- ① 広報資料をお送りください  
(郵送 / 窓口へのご持参)
- ② 衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス、大阪いばらきキャンパスの各センターに情報提供を希望される場合は、それぞれのキャンパスに広報資料をお送りください

※団体情報に変更が生じた場合は、「団体情報カード」も併せてお送りください。

立命館大学 サービスラーニングセンター  
活動報告 2022





社会活動を通して  
市民性を育む。

サービスラーニングセンターでは、ミッションの一つである「サービスラーニングの普及により、学生のシチズンシップ（ボランティアマインド等）を涵養する」ために全学生に対して地域課題解決に向けたボランティア活動の機会を提供しています。

2022年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための制限が徐々に緩和されてきたこともありオンラインとリアルを併用しつつもコロナ禍以前の活動を一部再開することができ、多くの学生が地域で活動する場面が増えた一年となりました。

CONTENTS

- 03 2022年度の取り組み
- 05 サービスラーニング科目紹介
- 06 サービスラーニングセンターの歩み／サービスラーニングセンターの役割と概要
- 07 組織図
- 08 学生コーディネーター制度について
- 09 学生コーディネーターインタビュー

2022年度課外活動総覧

事業・取組	通称名	キャンパス	参加者数	実施回数	備考
-------	-----	-------	------	------	----

① ボランティアコーディネーション

学生対応	窓口コーディネーション(オンライン含む)	衣笠 BKC OIC	90 70 56	— — —	
地域対応	地域からの相談対応		—	—	新規登録団体:44団体
広報活動	manaba+R:SLC登録団体の情報発信		—	46	
	manaba+R:「さらたす」配信		—	9	
	Twitter:ボランティア情報等発信		—	63	フォロワー:517人
	LINE公式アカウント:ボランティア情報等発信		—	31(衣笠) 39(OIC)	友だち登録者数 422人(衣笠)・176人(OIC)

② ガイダンス

在学生向けガイダンス			—	—	
学生団体合同企画			—	—	
地域参加ガイダンス			—	—	
新入生向けガイダンス	ウェルカムアワー	衣笠 BKC OIC	60 74 43	2 2 1	対面&オンライン 対面&ミニ企画 対面のみ
	サービスラーニングセンターについての紹介動画		—	1	動画視聴回数:90回
	正課「サービスラーニング科目」の紹介動画	オンデマンド	—	1	動画視聴回数:42回
	課外プログラムの紹介動画		—	1	動画視聴回数:11回
	ボランティア相談についての紹介動画		—	1	動画視聴回数:27回
在学生向け啓発企画	課外活動の森	対面&オンライン	16	3	

③ ボランティアプログラム

ボランティア体験プログラム	祇園祭 菊水鉦ボランティアプログラム2022	衣笠	47	1	
	時代祭 衣装由干しボランティアプログラム2022	衣笠	22	1	
	仁和寺ボランティア体験プログラム2022	衣笠	32	4	
	シチズンシップ・スタディーズ関連(みずとわ)課外プログラム	OIC	6	1	
	茨木市「JAZZ & Classic Festival」出展	OIC	7	1	
	OpenStreetMapを活用した、キャンパスおよび近隣地域のアクセシビリティ向上プロジェクト	OIC	3	1	
	BKCボランティア体験プログラム(ほらいち)	BKC	5	2	受入団体3(うち1つ中止)
	留学生集合! Let's enjoy Summer Volunteer!	BKC	6	2	受入団体2
復興支援プログラム	鹿児島リバーバンクプログラム2022	共通	12	1	
	大阪マラソン	共通	27	1	
ワークキャンプ	大船渡盛町七夕まつり	共通	17	1	
	高島ワークキャンプ	共通	19	1	

④ 育成支援・スキルアップ

学生コーディネーター制度の運用	学生コーディネーター登録数 研修派遣		89 8	— 2	
新たな活動の担い手の拡充	ささえる訓練(災害ボランティア現場の活動体験)	共通	20	1	
	書籍等を活用した寄付プログラム/関連イベント	OIC	6	1	

事業・取組	通称名	キャンパス	参加者数	実施回数	備考
-------	-----	-------	------	------	----

⑤ 連携・協力・ネットワーク形成

学内機関・部署との連携協力	AsiaWeekの出展		—	1	学生CO14名/地域住民2000人
	びわこ・くさつ健康フェスタBKCウェルカムデー		—	1	学生CO6名参加
	災害復興支援室定例会議		—	—	会議参加
	BKC地域連携情報共有ミーティング		—	—	会議参加
学外関係団体との連携協力	OIC地域連携ミーティング		—	—	会議参加
	関西地区大学ボランティアセンター連絡協議会		—	—	会議参加
	災害ボランティアに係るパートナーシップ会議		—	—	会議参加
	大学間連携災害ボランティアネットワーク		—	—	会議参加
	北区学生×地域応援団		—	—	ネットワーク加盟
	滋賀県内市民活動支援センター意見交換会		—	—	会議参加
	災害支援市民ネットワークしが		—	—	会議参加
研究活動への協力・参加	サービス・ラーニングネットワーク		—	—	ネットワーク加盟
緊急災害時の対応	(実施なし)		—	—	

サービスラーニング科目受講者数

科目名	配当回生	キャンパス	クラス	開講期間	受講者数		回生別					
					セメスター計	計	1	3	3	4	5~	
地域参加学習入門	1・2	衣笠	GA	春	300	596	2,565	191	81	2	17	9
			GD	春	296			170	97	0	24	5
			GB	秋	278			208	50	1	15	4
			GC	秋	282			206	56	0	15	5
		BKC	G1	春	300	598		130	157	1	11	1
			G2	春	298			141	149	2	4	2
			G3	秋	300			148	145	1	5	1
			GV	春	301			207	71	5	11	7
		OIC	GW	秋	210	210		112	58	17	20	3
現代社会とボランティア	1・2	衣笠	GA	春	97	559	80	17	—	—	—	
			GB	秋	92		64	28	—	—	—	
		BKC	G1	春	96		28	68	—	—	—	
			G2	秋	82		52	30	—	—	—	
		OIC	GV	春	100		75	25	—	—	—	
			GW	秋	92		71	21	—	—	—	
現代社会のフィールドワーク	1回生以上	衣笠	GA	秋	79	239	40	18	9	9	3	
		BKC	G1	秋	79		26	37	10	5	1	
		OIC	GV	秋	81		64	12	1	2	2	
シチズンシップ・スタディーズ	2回生以上	衣笠	GA	秋	28	80	—	13	11	4	0	
		衣笠	GB	秋	8		—	5	3	0	0	
		BKC	G1	秋	23		—	15	6	2	0	
		OIC	GV	秋	21		—	9	9	2	1	

# 活動報告 01 きくすいほこ 祇園祭 菊水鉾 ボランティアプログラム 2022

2022.7.12 TUE — 18 MON 【内6日間】

日本三大祭（京都三大祭）の一つである祇園祭。「地域課題への関心醸成」「伝統文化並びに芸術振興に寄与」を目的に初めてのプログラムとして実施。

計6日間、延べ77名の学生が、祭りを支える担い手として巫女や裏方として活動を行いました。

参加学生からは、「『京都人の京都人による京都人のためのもの』という印象が強かったのですが、実際は仕事関係で京都に住んでいる方や結婚を機に移り住んだ方などが多くいて、お話を伺う中でオープンな印象に変化しました。」という気づきの他、サービラーニング科目（正課授業）の受講につながった学生など、課外活動を通じた学びの接続もみられました。

コロナ禍のため一部活動に制限があったものの、次年度も受入団体との連携のもと実施を予定しています。



# 活動報告 02 にんなじ 世界遺産 仁和寺 ボランティア体験プログラム 2022

2022.9.5 MON — 7 WED

サービラーニングセンターの学生スタッフ「衣笠学生コーディネーター」が、文化財保護への関心の醸成を目指し、「世界遺産 真言宗御室派総本山 仁和寺」（以下、仁和寺）にて、清掃ボランティア活動を企画・実施しました。

文化財保護やボランティア活動に関心のある32名が3日間にわたり、世界遺産である仁和寺の住職や学芸員からの説明を受け、文化財保護・活用について学びました。

また、御殿庭園の草抜き、同庭園の砂目付けをはじめ、普段は入ることができない御堂での清掃活動を行いました。

企画者 文学部3年生コメント

「参加された学生の皆さんには、これを機に文化財保護について興味を持ってもらえればと思います。そして、他のボランティア活動にもぜひ参加してもらえれば願っています。」

立命館大学ホームページ  
NEWS&TOPICSでも  
紹介されました



# 活動報告 03 おおふなとしさかりちよう 大船渡市盛町 七夕まつり サポートプロジェクト 2022

2022.8.3 WED — 10 WED 【8日間】

立命館大学では岩手県大船渡市と包括連携協定を締結しており、様々な連携や交流を行っています。中でも、1週間ほど現地に滞在しながら「盛町灯ろう七夕まつり」の運営を準備から片付けまでを支える本プロジェクトは、2012年度から続く取り組みです。2022年度の「盛町灯ろう七夕まつり」は、2年に渡るコロナ禍での中止を経て、まちの装飾やプログラムを一部縮小しながらも3年ぶりに開催されました。

立命館大学からは合計19名の学生（課外プログラム参加者、正課科目受講生およびES<sup>※</sup>）が参加し、地域の方々の祭に込める熱い想いに触れて心を震わせ、自分も盛町の行事や伝統を継承する一員であることの自覚を携えて徐々に地域の中に溶け込んでいく姿が印象的でした。

※ES (Educational Supporter) は、授業において教員や学生のサポートをする学部学生です。学生の質問対応や教材作成の補助など、教員と学生双方をサポートすることで授業をスムーズに進め、より効果的な学習効果を生み出す役割を果たします。



# 活動報告 04 Asia Week での出展

2022.10.23 SUN

OIC 学生コーディネーターが、「ドナルド・マクドナルド・ハウス おおさか健都（以下おおさか健都ハウス）」<sup>※</sup>に協力していただき、2022年度のAsia Weekで出展しました。大学主催の地域向けイベントを活用し、団体が抱えている「地域の人からの認知度が低い」という課題解決に向けて取り組みました。「牛乳パックで募金箱づくり」や「クイズを通してドナルド・マクドナルド・ハウスのことを知ろう！」など地域の方々との交流を交えて、大学と地域の交流を図りながら団体のお悩み解決に貢献できました。また、団体のための募金活動も同時に行いました。

Asia Week に来場した約2000人の市民に対して、ドナルド・マクドナルド・ハウスのことを知ってもらえる機会を作り、さらに48000円ほどの募金を集めることができました。また、すべての募金は「おおさか健都ハウス」に寄付しました。

※ドナルド・マクドナルド・ハウスは、自宅から遠く離れた病院に入院・通院している子どもたちとご家族のための滞在施設です。『第二のわが家』をコンセプトに、公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンが運営しています。



# サービスラーニング科目紹介

SERVICE LEARNING SUBJECTS

サービスラーニング科目

詳しくはこちら



## 01

### 地域参加学習入門



大学生の学びの場はキャンパス内にとどまるものではなく、ボランティア活動などの、地域へ参加する活動を通じて、かけがえない学びを得ることができ、人間的な成長や、専門知識への関心が高まります。しかし、地域参加活動の魅力や、そこで得られる学びは、活動を行っていない者にはなかなか理解しがたいものでもあります。また、社会的な活動であるため、事前に諸々の注意事項を理解しておく必要があります。この授業では、社会で学ぶ自己形成のために、地域参加活動へ誘う動機づけをおこないます。そして、活動に参加するための心構えを身につけることも目的とします。

## 02

### 現代社会とボランティア



超少子高齢化と高度情報化の社会において、よりよい未来を拓くために高い倫理観を携えた模範的な行動、すなわちボランティア活動の展開が一層重要になってきました。とりわけ人口減少社会においては、AIで代替可能な社会サービスは何か、転じて人間にこそ求められる役割は何か、存在価値の追求が欠かせないためです。この授業では、授業期間内でのボランティア活動の体験と、その体験の言語化を通して、模範的な市民としての知識と能力と態度を習得します。それにより、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うための力を養います。

## 03

### 現代社会のフィールドワーク



机の上での学びが「デスクワーク」とするならば、キャンパスを出て、まちの動きの只中で学ぶ「フィールドワーク」は、もう一つの学び方です。何より「複雑に入り組んだ現代社会に鋭いメスを入れ、さまざまな謎や疑問を徹底的に究明する」といったフレーズは、テレビの中だけで通用するものではなく、むしろ、誰もが率先して「問い」に向き合う言葉として携えていってよいでしょう。この授業では「座」と「動」を織り交ぜ、社会における問題の発見から解決までのシナリオを協働で探ることを目的とします。

## 04

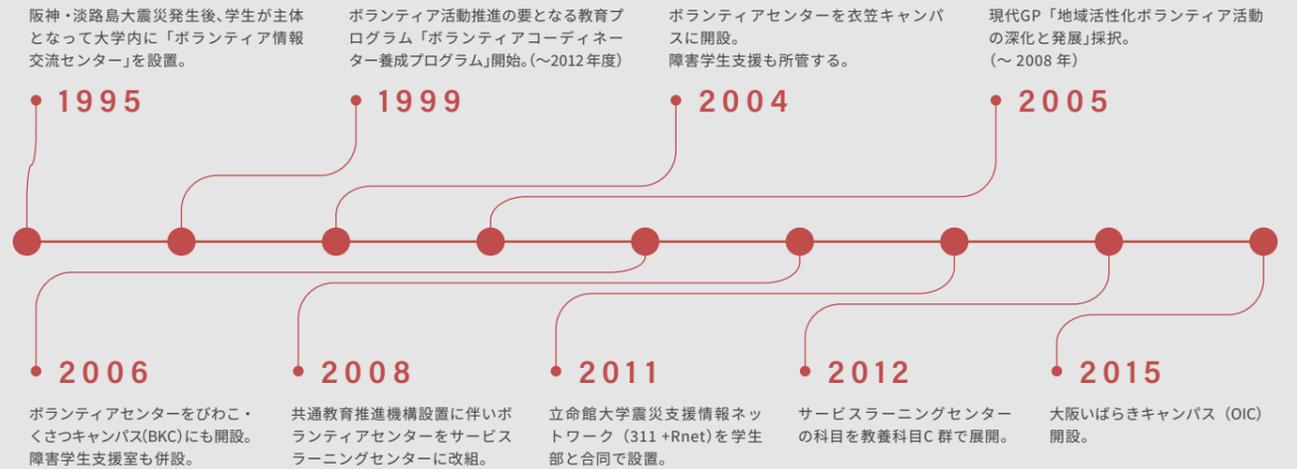
### シチズンシップ・スタディーズ



地域社会で行われる事業に参加し運営を支えることを通じて、そこに携わる人々の役割や責務を体験的に学びます。具体的には、地域が抱える課題に NPO や住民組織、自治体等が取り組んでいく過程を知り、倫理観・正義感・責任感の涵養への関心が促されることとなります。現場と教室を往還するサービス・ラーニング手法に基づき体験を学びに変えることで、他者やコミュニティへ関心を持ち、能動的で責任ある行動を取る力を育成します。

# サービスラーニングセンターの歩み

SERVICE LEARNING CENTER HISTORY



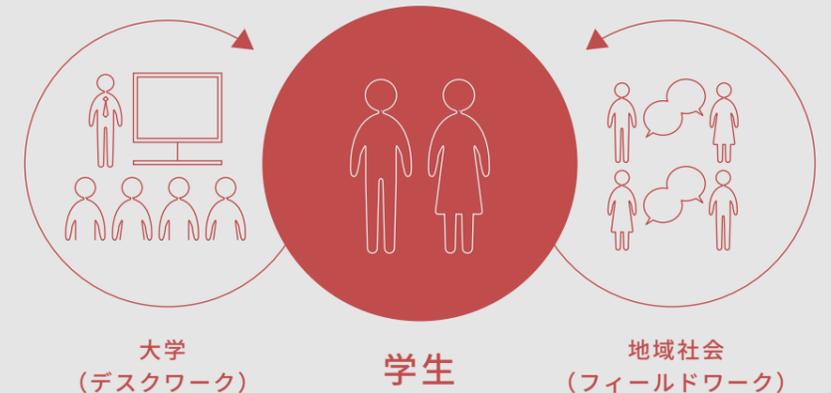
# サービスラーニングセンターの役割と概要

ABOUT - SERVICE LEARNING CENTER

立命館大学サービスラーニングセンターは、2004年に創設したボランティアセンターを発展させ、2008年に設立されました。

学生が学びと成長を深めるための教育プログラムを開発・体系化する機関として、教養教育におけるサービスラーニング科目を開講しています。また、大学と地域が課題解決に取り組むネットワーク拠点としての役割を担うと共に、地域・社会におけるボランティア活動を企画・展開しています。

あわせて、学生同士が主体的に学び合い、支え合う「ピアサポーター」としての「学生コーディネーター」を採用・育成しています。



# 組織図

SERVICE LEARNING  
CENTER  
ORGANIZATION



センター長  
**山口 洋典**  
YAMAGUCHI  
HIRONORI

## 共通教育推進機構 教授

【専門分野】  
●グループ・ダイナミクス ●国際ボランティア ●アートマネジメント



**秋吉 恵**  
AKIYOSHI MEGUMI

## 共通教育推進機構 教授

【専門分野】  
●社会開発 ●農漁村開発（振興） ●エンパワメント



**小辻 寿規**  
KOTSUJI HISANORI

## 共通教育推進機構 准教授

【専門分野】  
●地域社会 ●まちづくり ●社会的包摂

### 主事（専門職員）

各キャンパス1名ずつ、専門スタッフとして配置されています。ボランティアや市民活動に携わってきた経験などをもとに、地域に出ることの楽しさと、そこから学びを深めることのおもしろさを伝える立場で、地域とのつながりづくり、正課外プログラムの企画運営、学生コーディネーターのサポート、サービスラーニング科目の一部運営などに携わっています。



**國定 直樹** KUNISADA NAOKI

衣笠キャンパス担当 2023年5年目

多様な人や地域との関わりを通して、学生・地域・大学がともによりよい未来を創っていくことをサポートできたらと思っています。2023年度、個人的には受け継いだバトンを次に繋ぐことを意識して活動してまいります！



**今里 美香** IMAZATO MIKA

びわこ・くさつキャンパス担当 2023年1年目

地域と学生の橋渡し役を目指します。2023年度はボランティアやボランティアコーディネーションのこと、学生と一緒に悩みたいです。



**姜 麗君** JIANG LIJUN

大阪いばらきキャンパス担当 2023年4年目

「地域と学生を繋ぐ」という役割を果たすことは決して簡単なことではないです。2023年度は改めてこの原点に立ち、学生と「ともに」、より良い地域社会に向けて行動していきます。



**横関 つかさ** YOKOZEKI TSUKASA

びわこ・くさつキャンパス担当 2022年度まで

### 学生コーディネーター

教職員と共にサービスラーニングセンターの運営を担う学生スタッフで、3キャンパスで合計89名が所属しています（2023年1月現在）。ピアサポートの観点から、同じ学生の立場で、ボランティアをしたい学生へ団体や活動を紹介したり、ボランティアに参加するためのきっかけづくりを目的とした取り組みを行っています。



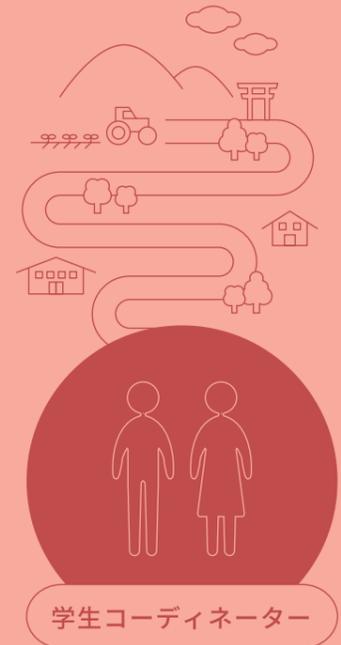
# 学生コーディネーター制度について

STUDENTS COORDINATOR SYSTEM

学生コーディネーターは、学生同士が主体的に学び合い、支え合う「ピアサポーター」として学生と地域をつなぐ活動を行っています。

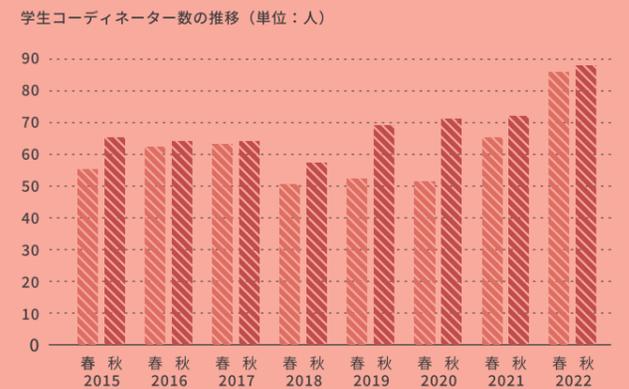
具体的には、サービスラーニングセンターのミッション&ポリシーに基づいて、学生によるボランティアや地域社会に貢献する活動を促進・支援するために、ボランティアや地域活動に関する相談対応、活動に関する情報の収集や発信、地域と学生が出会うきっかけとなるプログラムの企画などを行っています。

学生コーディネーターは年に2回募集を行い、書類選考・面接を経て採用されます。募集に際しては、ボランティアや地域貢献活動の経験があること、もしくはサービスラーニング科目を受講しているといった条件を設け、年間を通じて各種研修を行うなど、学生コーディネーターの学びと成長を支援する仕組みを整えています。



【学生コーディネーター採用人数】				
年度・セメスター	衣笠	BKC	OIC	計
2015 年度前期	10人	3人	6人	19人
2015 年度後期	6人	4人	10人	20人
2016 年度前期	4人	1人	8人	13人
2016 年度後期	6人	5人	0人	11人
2017 年度前期	7人	4人	7人	18人
2017 年度後期	2人	4人	3人	9人
2018 年度春学期	2人	2人	5人	9人
2018 年度秋学期	6人	2人	2人	10人
2019 年度春学期	5人	4人	5人	14人
2019 年度秋学期	2人	6人	6人	14人
2020 年度春学期	新規募集中止			
2020 年度秋学期	10人	6人	4人	20人
2021 年度春学期	8人	7人	10人	25人
2021 年度秋学期	8人	3人	0人	11人
2022 年度春学期	7人	8人	13人	28人
2022 年度秋学期	4人	3人	0人	7人

【学生コーディネーター数】				
年度・セメスター	衣笠	BKC	OIC	計
2015 年度前期	27人	14人	15人	56人
2015 年度後期	28人	15人	23人	66人
2016 年度前期	24人	12人	27人	63人
2016 年度後期	27人	12人	26人	65人
2017 年度前期	28人	11人	25人	64人
2017 年度後期	26人	13人	26人	65人
2018 年度春学期	18人	11人	22人	51人
2018 年度秋学期	21人	13人	24人	58人
2019 年度春学期	17人	13人	23人	53人
2019 年度秋学期	22人	19人	29人	70人
2020 年度春学期	14人	18人	20人	52人
2020 年度秋学期	24人	24人	24人	72人
2021 年度春学期	23人	23人	20人	66人
2021 年度秋学期	27人	26人	20人	73人
2022 年度春学期	27人	30人	30人	87人
2022 年度秋学期	29人	31人	29人	89人





## 多様な人との関わりのなかで学ぶ

### 学生と地域のあいだに立つ

もともと漠然とボランティアをしてみたいと思っていた、入学したの4月に開かれた「ボランティアガイダンス」(通称:ウェルカムアワー)へ参加したのがサービスラーニングセンターとの出会いです。そこで、学生コーディネーターになれば、ボランティアをするだけでなく、紹介する側にもなれると知り、興味をもちました。紹介役は他のボランティアサークルでは経験できません。受け入れたい地域と意欲ある学生との間にたって、両方思いを共有できるのが楽しそうだなと思い、応募を決めました。

いまは学生コーディネーターに加え、週2回2つの学習支援ボランティアを行っています。まずは自分もやってみないと、と思って。片方は先輩コーディネーターの紹介で、もう片方は自分で調べて飛び込みました。

### それぞれの経験をシェアし 学び合う

学習支援のボランティアは、やってみよう、楽しそうというだけで、月1、2回程度と軽い気持ちではじめました。けれど、現場に入り、子どもたちと実際に関わるなかで、その難しさ・奥深さを感じるようになりました。たくさん接する機会をつくること、長くつづけることが大切だと考えるよ

INTERVIEW 01

法学部  
法学科1回生

六角 彩愛



INTERVIEW 03

経営学部  
経営学科3回生

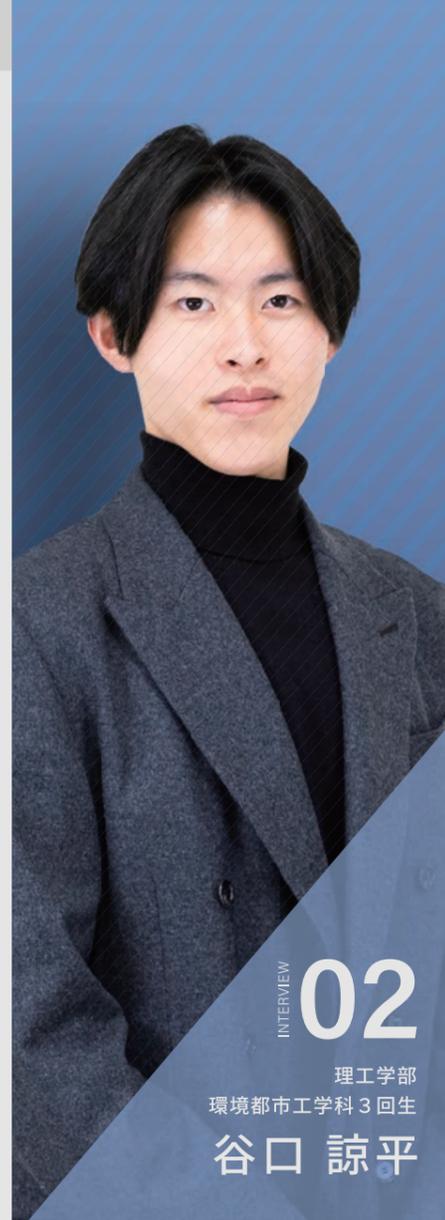
北 万里子

うになったのは大きな変化です。そういう日々の学びや気づきは、3つのキャンパスを越えて、活動報告としてコーディネーター同士で共有しています。みんな頑張っているなど刺激を受けたり、学び合えたりする環境があるのも、サービスラーニングセンターの魅力です。

### 地域での出会いから 自分の人生を考える

ボランティアで地域に出てみると、年齢も所属もさまざまな方と出会うことができます。多様な人との出会いは、いろんな生き方との出会いでもあります。この人にはこういう想いがあるって選択したんだ、シフトしたんだ、そういう物語を知ること、自分の人生の選択肢も広がるような感じがします。こんなに世界が広がるとは、大学に入ったときには思ってもみませんでした。

人に出会い、それぞれの選択に耳を傾けながら、「私はなにを選びたいのだろうか?」と問い続けていきたいです。そしてその先に、自分の芯を形づくれたらいいなと思っています。



INTERVIEW 02

理工学部  
環境都市工学科3回生

谷口 諒平

## あなたにあった活動が見つかる

### 地元の祭りのつくり手に

滋賀県草津市の出身で、「草津街あかり・華あかり・夢あかり」は地元の馴染み深いお祭りでした。大学入学後、シラバスを眺めていたら、街あかりにブースを出す授業を見つけ、興味をもちました。それがサービスラーニング科目のひとつ「シチズンシップ・スタディーズ」でした。

入学前には、ボランティアの大学生が授業の一環で関わっているとは知りませんでした。主体的に動いている印象で、自然に地域の方やブースの出展者のなかに溶け込んでいました。

残念ながらコロナによって街あかりは中止になったため、授業では代わりに、地域の人がお祭りを感じることでできる動画の制作を行いました。まつりの発起人や長年出店を続ける方へ取材をしながら、地域の人のお祭りへの思いを知るところからプロジェクトはスタートしました。

### 一緒につくる難しさを 身にしみて感じる

街あかりの運営に関わるまでは、楽しいからお祭り行くという、受け身な存在でした。つくり手側に立ってみて、はじめて気づいたことがたくさんあります。授業の受講生だけ

でも、学部や回生、やりたいこともみんなそれぞれで、それを擦り合わせていくのは大変です。そこに地域や役所の方なども関わってきます。意見の食い違いや思いの行き違いを生んでいる、小さな認識のズレを調整し、合意をとりながら物事を進めていくことが、こんなに悩まされるとは思いませんでした。

授業を通して、さまざまな人と関係づくり、協力的に動いていくことの難しさ、主体者としての責任を痛感しました。けれど、それが醍醐味だなと思います。

### 受ける側から渡す側へ

サービスラーニングは相互の学びです。これまでは「自分が何を学べるか」と、受け取るばかり考えていましたが、学生コーディネーターとしての3年間を通して、「自分は何を与えられるか」という渡す姿勢をもつようになりました。なにかをもらったぶん、価値を還元し、循環させる使命があります。いまの自分にできることは、地域に主体的に関わり、その学びや楽しさを大学生に共有していくことかなと思います。

学生コーディネーターは、地域で活動するおもしろさを伝えることが役割です。やりたいことがわからないという人も多いと思いますが、気軽に相談しにきてください。きっとあなたにあったボランティアや地域活動が見つかるはずです。

## STUDENTS INTERVIEW

所属は2023年3月末現在のものです

## 価値のつくり手、 伝え手になる

### 「なにか」を探すアンテナに 引かかって

サービスラーニング科目のひとつ「現代社会のフィールドワーク」を履修したのがサービスラーニングセンターとの出会いです。具体的な問題への対処やアプローチを、外部からのゲストスピーカーから学ぶことに惹かれて受講しました。

学生コーディネーターに応募したのは2

回生のときです。1回生のときはコロナ禍で活動ができなかったのが、2回生でなにか始めたいと思っていた頃、アンテナに引かかれました。ボランティアをするだけでなく、他の学生に紹介するという一歩踏み込んだ活動をできることが魅力的でした。

### 相補的なサービスとラーニング

サービス=地域に出て活動すること、ラーニング=学校でみんなと話して学びを深めること、ふたつがセットになっているのが、サービスラーニングのよいところだと思います。

例えば私の場合、フィールドワークの手法を講義で学び、ロールプレイしているときには、まだ身につけていない感覚があり

ました。その後実際に地域で、自分たちなりの目的をもって取り組むことで、手法が自分のものになってきたように感じます。教室の外に出て活動する「サービス」があることで、はじめて学べることがあります。加えて、ボランティアや地域活動を、やりっぱなしにするのではなく、仲間とふりかえる「ラーニング」の機会があることも魅力です。私自身も、企画を立ち上げたときに、経験を次に活かすために、みんなでふりかえりをするようになりました。

### 地域での出会いから 自分の人生を考える

いまは、「朝活会」を主催したり、地域の

イベントの企画をまかせていただいて運営したりしています。イベントやお祭りはもともと好きですが、いま住んでいる茨木市は市民活動が活発で、自分でもイベントの運営側になれることを知って驚きました。

学校、部活などに縛られず、地域に目を向けてみると活動の幅は大きく広がります。キャンパスのある地域や、自分の住む地域も、学びのフィールドと捉えなおしてみるとおもしろいと思います。

学生時代は好きなことをたくさんやればいいと思います。好きなことが見つからない人は、アンテナをはって、おもしろそうなことになんでも挑戦してみてください。サービスラーニング科目は、ひとつのきっかけになるはずです。